

ミクロの世界に興味津々

鳥大病院 電顕サークル写真展

学生らが電子顕微鏡で撮影した作品が
並ぶ会場



「電子顕微鏡で観るミクロの世界の写真展」(鳥取大電子顕微鏡サークル主催)が、鳥大医学部付属病院(米子市西町)の院内ギャラリーで開かれている。血液中の細胞から昆虫や植物まで、肉眼では見えないミクロの世界を写した22点が来院者を楽しませている。28日まで。

同サークルによる写真展は2回目。9人の学生が非

常勤講師の稲賀すみれさんの指導を受け、電子顕微鏡で草花や生物などを観察してきた。

クモがアリを捕まえようとする瞬間の糸の状態まで分かる「アリとクモ」や、約1万倍の倍率でチェーンのように絡まった形を捉えた「乳酸菌」などが並ぶ。

皆生海岸で拾った海藻に付着した植物プランクトン「珪藻」を写した作品は、パソコンを用いたカラー化にも挑戦。作成した医科学専攻修士1年の中安真理恵さん(23)は「一見何もないのに、電子顕微鏡をのぞくといろいろな形が見える」と魅力を語った。

このほか稲賀さんの「ヒトの染色体」や電子顕微鏡アーティストの故西永奨さんのカラー作品も展示。稲賀さんは「医学生ならではの目の付け所も面白い。小さな世界を楽しんで」と呼び掛けた。(渡部ちぐみ)